

No.376 に続き、還暦に際し、再認識したことを一言。



校庭に落ち葉が目立つようになりました。葉っぱは自然に放置すればいずれ土に還ります。

この場合の「かえる」はあるべきところへ戻ることを意味する「還」という漢字を当てます。「生還」「帰還」などの使い方があります。

「還暦」の「還」と同じです。「還暦」は「もとの暦に還る」、つまり自分が生まれた年の干支に還ることを意味します。わたしは38年間、特に義務教育期間の児童生徒への教育に携わってきました。いろいろなことがありました。

その仕事の多くは、言葉を使用して物事を教える営みでした。

しかし、言葉では決して教えきれない教育の重要性を感じることも多々ありました。表面的なテストで評価するものとは違う、魂や精神、道徳性に関わる内面の部分こそ、豊かに耕し充実させることが、遠回りのようでも学力に結びついていくことを、中学校では特に感じました。

体に浸み込むような感動体験や、頭が疲れ切るような思考体験、仲間との喜怒哀楽の中での絆を深める体験、人間を超えた自然などに包まれる体験…。そういうものが血や肉となって、伸びゆく大樹の根っこの部分で力を発揮する。そんな教育こそが大切で、そこがいい加減では少しの風雨で倒れてしまいます。

「還暦」の「還」に関わって言えば、自分ではどうにもやりきれないような、倒れてしまいそうな場面に出会ったとき、友人や家族、仲間、自然などいろいろな拠り所があり、相談に乗ってもらったりしますが、**最終的にはやはり「自分自身に還る」**こととなります。自分の2本の足で立つ。歩く。自分のために時間を使う。自分を磨く。他人と関わる。他人や社会のために貢献する…。最終的には自分自身の体に浸み込んでいるものが立ち現れてくるように思います。それは言葉だけの教育では足りません。



還暦に際し、そんな教育が大切だと再認識しました。そして、本校が総合的な学習の時間や特別活動、道徳を中心として研究を推進し、「新しい東中文化の創造」を掲げ、ウェルビーイングを教育理念に踏まえたのも、そんな**「いのち」の「還りどころ」**に関わっていると改めて思いました。